

【認知症対応型共同生活介護 用】

1. 第三者評価結果概要表

作成日：平成20年2月25日

【評価実施概要】

事業所番号	2872800293		
法人名	有限会社ほおずき		
事業所名	グループホームCHIAKIほおずき播磨		
所在地	(〒 675-0159) 兵庫県加古郡播磨町東野添2丁目18番6号		
	電話	078-949-1566	
評価機関名	特定非営利活動法人 ライフ・デザイン研究所		
所在地	兵庫県神戸市長田区荻乃町2丁目2番14-703号		
訪問調査日	平成19年12月20日	評価確定日	平成20年2月25日

【情報提供票より】 [平成19年11月15日 事業所記入の同書面より要点を転記]

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年1月15日		
ユニット数	2ユニット (利用定員…計18人)		
職員数	13人	(常勤12人) (非常勤1人)	/ 常勤換算12.8人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	地上2階建て建物の1、2階部分		

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	80,000円	その他の経費(月額)	23,000円
敷金の有・無	有り (円) ・ 無し		
保証金の有・無 (入居一時金含む)	有り (300,000円) ・ 無し	(保証金有りの場合) 保証金償却の有・無	有り ・ 無し
食材料費	朝食	150円	昼食 350円
	夕食	350円	おやつ 50円
	または、1日あたり		

(4) 利用者の概要 (平成19年11月15日 現在)

利用者人数	計18名 … (男性8名) (女性10名)		
要介護1	6名	要介護2	7名
要介護3	2名	要介護4	2名
要介護5	1名	要支援2	0名
年齢	平均81.4歳 … (最低69歳) (最高91歳)		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	明姫診療所	上山歯科医院	明石回生病院
---------	-------	--------	--------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

JR「土山」駅から南へ徒歩約10分、閑静な住宅地に在る。近くにある、渡り鳥も飛来する大きな池(北池)には散歩がてらバードウォッチングによく出かけ、また、日々の食事は、献立づくりから後片付けまでを、職員と利用者が協働で「全てを手作り」で行ない、「家庭の団欒」を強く心掛けるなど、利用者の『暮らし』への社会生活支援を大切にしている。地元との交流促進として、生活用品の調達や食材の購入の際は、スーパーでの買物以外に、近隣商店を頻りに利用し、ホームへの配達をお願いするなど、その機会づくりも工夫している。施設長をはじめ職員の前向きな姿勢と行動力が、ボランティアその他、多くの方々からの協力につながっており、また、地域住民の方から「介護相談」に訪れ、地域にとって欠かせない存在になっている。◎添付の資料写真も参照

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4) ①書類の記録方法を見直したことで記入の重複も減り、個別情報が把握しやすくなった。②介護計画を評価するためのケース会議を定期的を実施するようになったことで、利用者情報の共有がより確実になった。③ヒヤリハット報告をメモ形式に変更したものの、事例が少ないので、これを「気付きノート」に変更した。④利用者家族へ、ホーム内・外の苦情窓口を再度案内した。
	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:第三者4) 管理者、主任、ケアマネージャー、計画作成担当者がそれぞれ自己評価を行なったものを管理者がまとめた。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:第三者4, 5, 6) 運営推進会議は、2カ月に1度の頻度で開催している。会議ではホームの現況やイベント報告の他、介護保険に関するQ&A、家族意見…等々、活発な意見交換がなされている。出席者の意見をきっかけに、利用者家族による講演会「家族から見た認知症(体験談)」の開催にもつながったのも大きな成果の1つ。議事録は非常に丁寧に作成されており、家族への配布もなされている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8) 毎月、個別情報としては、手紙と個人の写真を郵送し利用者家族に知らせ、ホーム全体としての行事案内などは「ほおずき通信」に掲載している。家族等の要望は各職員から管理者に報告され、全体会議(毎月開催)においてこれを取り上げ、運営に活かしている。さらなる取組みとして、第三者評価制度によるアンケートとは別に、ホーム独自の家族アンケートを実施する予定。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3) 地域自治会に加入し、各種行事に積極的に参加している。地域住民から畑で収穫した野菜や果物をいただくなど、「日常での」交流も増えてきた。地域で展開されている「いきいきサロン」参加者のホーム見学会も実施された。管理者は、介護に関する有識者として、地域のボランティア活動にも参加し、相互の交流が進んでいる。



▲ 食事を楽しむ支援（菜園で野菜を育て食卓に…）



▲ ホーム自慢の車椅子  
阪神タイガースの赤星選手からの寄贈



▲ その人らしい暮らしの支援  
訪問した日も、利用者(男性)が  
自慢のカレーを調理してくださった…



▲ 居心地の良い共有空間づくり



▲建物外観

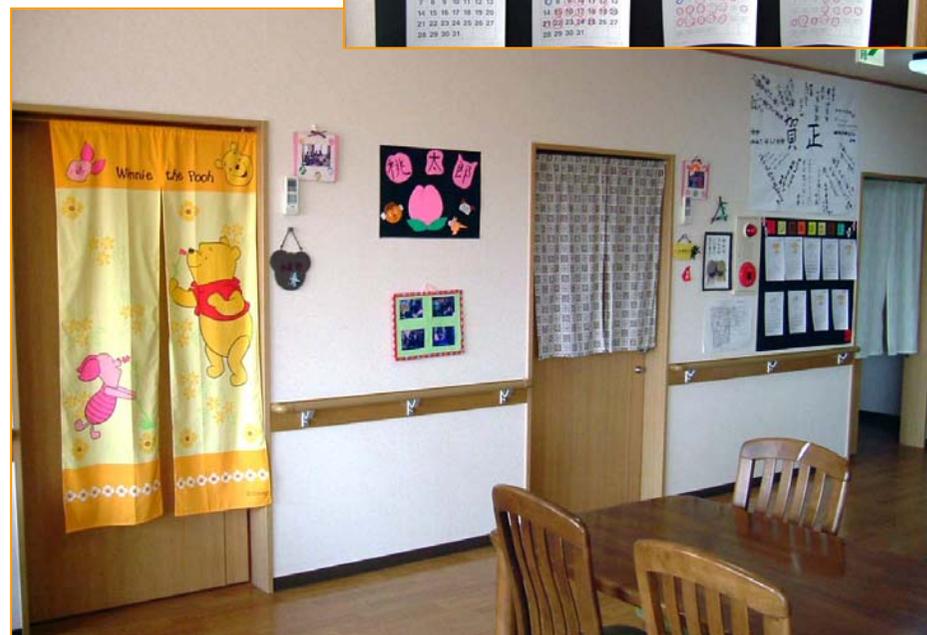


▲散歩コース（渡り鳥が飛来する「北池」）



▼開放感のある和室スペース

玄関周辺▲



▲ゆったりした共有空間（壁には入居者の作品を飾り、温かな雰囲気作りを…）



## 2. 第三者評価結果票

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人基本理念を「えみがこぼれる家庭… 入居者様の家庭・ほおずきでの家庭・職員の家庭… それが私のほこりです」とし、事業所目標を「丁寧・信用」に、「元気に挨拶・丁寧な言葉遣い・丁寧な対応」を具体的な目標に掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	会議や申し送り時に、理念・方針・施設テーマの話をし、職員の周知を図り、利用者の自立支援を主体においた日々の取り組みをしている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域自治会に加入し、各種行事(秋祭りや池の水落としなど多数)に参加している。ホーム開設当初より施設長が積極的に地域交流を実践している。地域住民がホームに相談に来られ、介護関連知識のアドバイスをすることも増えてきた。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員による自己評価には至っていない。評価結果は、家族会で説明したり郵送するなどの方法で公表し、ホームページ上でも公開している。改善項目に関しては、積極的に取り組んでいる。	○	自己評価項目を研修材料とするなど、全職員が自己評価に関わることで、さらなる資質向上につなげて欲しい。

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、利用者代表、利用者家族、地域住民、民生委員、自治会長、ホーム職員等で構成し、2カ月に1度の頻度で開催している。会議では活発な意見交換がされている。		
6	9	○市町との連携  事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	2市2町(加古川・高砂・稲美・播磨)グループホーム連絡協議会が組織されており、積極的に参加している。ホーム入居に関しては行政職員との関わりがあるものの、運営推進会議に関しては市町との関りは少ない。	○	今後、行政等の組織を交えながら「認知症サポーター養成講座」等を開催してほしい。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「ほおずき通信」を発行している。ホームでの写真を交えながら行事案内やお知らせとともに、日常生活の様子を利用者家族に送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の意見は各職員から管理者に伝えられ、月1回の全体会議において各職員からの改善提案を募り、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	1階ユニットと2階ユニットで2カ月ごとに一部の職員を入れ替えるローテーションを組み、顔なじみの関係を構築している。職員異動の際も、引継ぎ期間を設け、利用者のストレスを極力小さくしている。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	「CHIAKIほおずき」本部として、全体会議、新入社員研修、主任研修、施設長研修、エリア別勉強会などの研修等を豊富に提供している。ホーム内では月に1回は関連知識研修会(事例検討・回想法・ピック病・パーキンソン病等)を実施している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2市2町グループホーム連絡協議会の中で、3ヶ月に1回のペースで勉強会を開催しており、各ホームで抱える問題点などの事例をもとに、多くの考えや知恵をもらうことができている。法人内のエリア別勉強会も開催されている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には本人や家族と話し合う機会を十分に設け、困っている事や不安な事を聴き取っている。ホームの雰囲気に馴染むことを目的として併設するデイサービスを利用してもらい、入居後も落ち着いた生活ができるように支援している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○利用者と共に過ごし支えあう関係  職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者から、学ばせてもらう場面を意図的に作り、喜怒哀楽を共にし、信頼関係を構築する努力をしている。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「本人の言葉」を具体的に記録している。本人からの聴き取りが難しい場合は、家族等の思いを聴き取りケアに活かしている。		
<b>2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者本人の思いを大切に、家族等から自宅で生活していた頃の習慣などを参考に本人本位の介護計画を作成している。個別ケース記録については、行動面・精神面・医療面に分別して記録し、大変わかりやすく表記されている。ケース会議を毎月開催し、職員全員が利用者情報を共有している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しは、定期的(概ね3ヵ月に1度)に行なうことができている。日々の記録→モニタリング→カンファレンス→介護計画作成…と、実態に即した見直しが実践されている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援  利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイサービスを併設(隣接)しており、入居希望者に対しては、あらかじめホームの雰囲気慣れて(感じとって)いただくよう、デイサービスの利用をお勧めすることで、現状の生活からの急な環境変化の緩和を図っている。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援  利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医との連携は取れている。協力医療機関は、かかりつけ医を利用する入居者については訪問診療を導入している。歯科や眼科については協力医療機関や近隣医療機関の利用支援をしている。認知症専門外来のある医療機関とも関わりがあり、医師と電話やFAXで相談が可能である。依頼すれば協力医療機関の看護師の訪問も可能。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合は、家族や医師との話し合いをしっかりと行ない、事業所として出来ること、出来ないことを家族に十分に理解してもらったうえで、可能な支援を行なっている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	各職員は、常に利用者の自己決定を尊重したケアを心掛けている。個人情報の取扱いに関しても、全職員に徹底がされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを尊重し生活リズムを大切に支援している。体操や、散歩、掃除、食事作り、入浴などについても本人のペースに任せている。食事の準備を利用者だけで行なうこともある。気の合う入居者同士が同室で添い寝をしている時もある。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	「食材を切る」「味付けをする」「盛り付けをする」…等々、利用者は職員とともに皆で楽しく食事準備をし、片付けも協働している。お酒も行事の際には出すことがある。家庭菜園で取れた季節野菜なども食卓にあがる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間に制限はなく、入浴前のバイタルチェック、入浴回数、時間を記録をしている。浴室内では職員と1対1の関係になるため、良いコミュニケーションの場にもなっている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	年間の行事計画に季節行事や日帰り旅行、遠足等が組み込まれている。外出や外食も定期的実施されている。それぞれの経験や趣味を活かした取り組み(畑の管理、包丁とぎ、雑巾縫いなどの役割)があり、日々の生活の中で楽しみが持てるよう支援している。地域のボランティアの方(野菜作り指導、踊り、ハンドベル、フラダンスなど)も受け入れ、ホーム行事にも参加してもらっている。		
25	61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に散歩や買物に行き、外食後にはカラオケや映画に行くこともある。ホームのすぐ近くに多くの野鳥が飛来する「北池」があり、格好の散歩コースになっている。誕生日の外出については、職員が付き添いのもと、できるだけ希望をかなえられるように支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	各職員は身体拘束についての理解を深めたうえで、ケアにあたり、日中は鍵はかけていない。玄関は人の出入りでチャイムが鳴るように工夫している。夜間については防犯上施錠している。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホーム内設備として、簡易スプリンクラー、火災報知機、自動通報装置を設置しており、年に2回、定期的に避難訓練を行ない、近隣住民にも応援・協力をお願いをしている。消防署主催の救命講習を半数以上の職員が受講している。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者それぞれの食事摂取量や水分摂取量を大まかに把握し、記録している。水分摂取については、ココアや梅こぶ茶にするなどの工夫も見られる。夜間はペットボトルにお茶をいれ、居室でも水分補給ができるように支援している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関周りには多くの花を植え、庭にはたくさんのお木や季節野菜を育てている。共用部分にも季節の花を置き、トイレにもさりげなく一輪ざしが置かれている。リビングでは懐かしい音楽がBGMとして流れ、日当たりの良い窓際にはソファを置き、気の合うもの同士で談笑したり、うたた寝をするなど安心して落ち着いた空間づくりがされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使っていたベッドやタンスその他、使い慣れた家具や調度品を持ちこんでいる。写真や思い出の品、昔に作った作品、大切にしていた物品なども自由に持ち込み、安心して過ごせる空間作りがなされている。		

※  は、重点項目。